
心剣伝

キャプテン ラブ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心剣伝

【Nコード】

N9685Z

【作者名】

キャプテン ラブ

【あらすじ】

魔王にさらわれた姫を助けるために、利き腕を失った剣士が冒険をする物語。

プロローグ

「なんでこんな事になってしまったんだ・・・」

そうつぶやいた男【ブラスト・D・ジークフリード】、彼はラスタ国の姫に仕える王宮騎士であり、この物語の主人公だ。

ブラストは、姫を婚礼の為に隣のブルーリッジ王国へ送り届ける任務の途中であった。

だが、国境の林道で数え切れないほどの数の魔族の襲撃に合い、100名いた兵士達は全滅し残っているのは彼1人となっていた。

ブラストの自慢であった白銀の剣と王宮騎士の鎧は、赤や緑の魔族の返り血を浴びてその輝きを失っていた。

そして、守るべき相手であるフロリーナ姫も今まさに1人の男によって連れて行かれるところである。

しかし、ブラストは目の前にいるその男に対し、今までに無い恐怖を感じていた。

恐怖の対象であるその男は自らを【魔王】と名乗り、魔族の群れを指揮していた。

その姿は、全身を黒く輝く鎧で包み、青く腰まで伸ばした髪をなびかせ美しいとさえ思える程だった。

そして、何よりも特徴的だったのは長く尖った耳だ。美しく思えるのも当然であった。魔王はラスタ国では物語でしか

見る事のできない【エルフ】という種族なのだから。

「彼は私の友達なの！殺さないでっ！」

魔王の腕にしがみつつき、そう叫んだのはフロリーナだった。

林の中に響いたその声でブラストは恐怖を振り払い、剣を握る手に力を込めた。

対し、魔王はフロリーナへと優しい笑顔を返し、彼女を自分の背

中で隠すようにブラストの方へ向き直して言った。

「人間よ。もう1度言おう。私の名は魔王アクロポリス。」

私とて、人間との無駄な争いは好まん。フロリーナ姫は私がもらい妃とする。大人しく渡してくれるならば、貴様の命は助けてやろう。そして、ここにいた人間達が死んだのは、先ほどこの条件を飲まず我等に攻撃をしてきたからだ。

貴様も姫の友人だというならば、姫が何を望むかくらい解るだろう。

「その言葉を聞いたブラストの心の中には、魔王に対する怒りしか無くなっていった。」

「魔王よ。おまえに姫様の何が解ると言うのだ！」

姫様は、我等ラスト国の国民を守る為にブルーリッジ王国の王子と結婚するという条件を飲んだのだ。

その崇高な思いを、お前達のような魔族に邪魔させる訳にはいかない！」

そう言葉にし叫ぶ事によってブラストの身体に力が湧き上がり、先ほどまでは恐怖の対象でしかなかった魔王でさえ倒せるという気がしてきた。

『魔王までの距離は十数メートル・・・いけるっ！』

リーダーであるアクロポリスさえ倒せば残りはどうにかなるとブラストは確信し、再び剣を握り直すと間合いを詰めるため全力で踏み込んだ。

【音速剣】

音速剣とは本来ブラストの父である剣聖マールボルの奥義の1つである。

音の速さを超えるスピードで踏み込み振るわれる剣の威力は凄まじいものである。

だが、この剣の極意は速さではない。踏み込み時に左右への動きを入れる【く】の字の動きによって敵の視界から姿を消す事だ。

この剣技は幼少の頃から父と旅をして、その姿・戦い方を見てきたブラストだから使う事が出来るのだ。

だが、彼のスピードや技術は剣聖の域には遠く及ばず、音速とまではないえないだろう。

しかし、敵の死角を突くこの攻撃を防ぐ術は無い。

案の定、魔王アクロポリスでさえ反応する事が出来ない。

ブラストは勝利を確信し、動かないアクロポリスへと渾身の力で剣を振りぬいた。

『おかしい・・・』

ブラストはそう感じていた。今までの最高の速さで出した音速剣は、確かにアクロポリスを斬りさいたはずだった。

だが彼の剣には、その手応えが無かったのだ。

不思議に思ったブラストは、手応えを確かめる為に自分の剣を見た。

しかし、そこには剣は無かった。

正確に言うとブラストの右肩、その先が無くなっていったのだ。

振り抜いたはずの剣も腕も無ければ、手応えが無くて当然である。

「うわあああああっ！」

ブラストは思いもよらぬ光景と、その痛みに耐え切れず両膝を着き叫び声を上げた。

「これだから人間は・・・」

アクロポリスは目の前で叫び続ける騎士を哀れむような目で一瞥すると、その男の頭へそつと手をかざした。

その瞬間ブラストの身体から、痛みという感覚が消えた。

同時に目の前が真っ暗となり、意識も消えていった。

「ごめんなさい・・・」

フロリーナが最後まで自分を守る為に戦い倒れた騎士に対してか

けた言葉も、彼には届かなかった。

プロローグ（後書き）

読んでいただいた皆様ありがとうございます。

私は国語の成績も悪かったし、これが初めて書く小説なので読みにくい所もあつてすみません。

これから物語の主人公と共に成長し、読んでてワクワクできるような作品にしていきますのでよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9685z/>

心剣伝

2011年12月30日03時51分発行